

平成29年度 第三回生活支援体制整備事業1層協議体会議報告書

日 時 平成30年2月23日（金） 午前10時～正午

場 所 団体活動室Ⅲ

出 席 成田、梅本、中村、名越、吉田、入江、渡辺
(7名) 敬称略

地域包括 三笠、橋本、大澤、社協中谷事務局長、仲山、
渡辺、秋本（事務局）

1. 開会

2. 会長あいさつ 中村良雄会長あいさつ

3. 議題

(1) 第2層協議体の地域課題とその課題解決への取組みについて報告 (社協仲山)

A圏域、B圏域ふれあい会議第7回目の報告をする。(別紙:地域ぐるみネットワーク ふれあい会議参照)

A圏域:(第一小学校)はしそろピック3月10日(土)保健福祉センター3階にて開催

(第一小学校)レジェンドサロン(男性の参加を促すためお酒が飲めるサロン) 3月
25日体験会予定

(桜台・池の上小学校区)「地域の担い手として出来る事は何か」をカードゲームで具体化
お元気見守り事業拠点チーム指導に向けた話し合いを行った。

(南山小学校区)買物支援の進行状況は、利用者数が少なくなっているため再度PR周知を
行い、3名参加希望が増えた。

七次台小学校区から、体験乗車があった。

B圏域:(清水口小学校区)あいのねサロンの認知度を上げる事を中心に話し合いを行った。

3月28日(金)西白井複合センターを開催

けやき台、見守りパートナーの養成希望はなく、サロンや認知症の集まりがしたいというご意見
を聞いている。

(七次台小学校区、清水口小学校区)地域にあった買物支援の話し合いを行った。

3月23日(金)富士ひだまりサロン開催(愛の家グループホーム白井富士にて)

*別紙資料(ふれあい会議、報告)を参照

その他買物支援の目的と今後の活動について(事務局より補足)

七次台小学校区で、アンケート行う案があり、実施するかどうかも含めて検討中

(アンケートの目的内容、回収の仕方等)

買い物支援の方策として移動販売の車の情報も出ており、販売者や状況を把握している状況。
B圏域の3月話し合いでは、農政課とやおばあーく、の移動販売担当者が来所し、お互いの情報交換を行う予定。

南山小学校地の買い物支援の方法は、現在自主活動になっていないため、今後の自主活動化や継続に向け検討中。

(2) 白井市の高齢化率、介護サービス利用状況等現状報告

平成30年4月からの第7期高齢者福祉計画・介護保健事業計画を策定中であるため、そこに記載している数字を説明します。

また、住民の皆さんと一緒にサービスをつくっていかうなっていますので、それに該当する情報をご報告します。

人口と世帯の推移

- ・昭和54年、千葉ニュータウン入居開始時の人口 24,974 人、65 歳以上人口割合 6.4%。
平成 27 年の人口 61,674 人、65 歳以上人口割合 23.3%。人口は約 2.4 倍、65 歳以上の高齢者割合は約 3.6 倍。
- ・市の人口のピークは、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年で、人口 65,200 人、65 歳以上人口割合は約 27.6%の見込み。
- ・市の人口は、千葉ニュータウン入居と共に増え、同世代が多いため、急激に高齢化が進む。

介護保険サービス利用の見込み

- ・要介護認定者数は、平成 27 年が 2,099 人⇒平成 37 年（2025 年）4,195 人と約 2 倍となる見込み。
- ・介護保険サービス利用者の見込みも、認定者数と同様に増えていく想定。

※訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問入浴、通所介護、通所リハビリテーションの平成 27 年～29 年の実績と平成 30 年～32 年、及び平成 37 年の見込み数を別資料グラフを参照。

地域の資源の状況

- ・介護保険サービスのみでは、支援や介護が必要な人のニーズに答えきれなくなってくる。
- ・介護予防の活動に参加いただき、介護が必要な状態になることをできるだけ遅らせる。また、ちょっとした困りごとに地域で応えられる体制をつくっていくことが必要。
- ・そのための地域の資源として、交流を目的とした地域のサロン・高齢者クラブの数（小学校区ごと）、家事支援やちょっとしたことが頼める自費サービスの数、地域での見守り活動について資料で提示。今後、協議体で、このような活動の創出を図っていく。

*別紙資料参照（地域全体で見守り・支え合う）

地域のたすけあい自費サービスについて *別紙資料参照（地域包括ケアシステムガイド）

（３）テーマや方向性について・・・スローガン

白井市の方向性は、白井第２次地域福祉計画「しろい支え愛プラン」と第４次白井市地域福祉計画「白井いきいきプラン」の中の３つの共通テーマの戦略プラン『ふれあう』『育みあう』『助け合う』を全地域の方向性にしてはどうか。

『ふれあう』は、生きがいづくり、健康、福祉の拠点活用、『育みあう』は、居場所づくりや社会参加、『助け合う』は、交流づくり、災害時の対応と分けて捉えており、現在２層ふれあい会議で進めている内容や、実施しているものも、この３つのくりに分けて入れてみると、課題の整理が出来る、目

標も見える化になって良いことから事務局から提案をした。

賛成意見をいただき、その中でも毎年重点項目の一つ考えてみてはどうかというご意見があった。まず、色々なことで集まったり何かするには、触れ合うことができないとすべてにおいて進まないことから、３つの共通テーマ戦略プランの中の『ふれあう』を今年の重点とすることに決定した。

別紙：地域で支え合いのできる事の資料より、『ふれあう』『育みあう』『助け合う』のテーマで考えられることについてご意見いただいた。下記参照

ふれあう（アクション）	育みあう（育成・場づくり）	助け合う
・サロンの開催・継続 集まる事がふれあいに繋がる参加を促すための運営方法を工夫する（変化も必要）男性の参加を増やす ・楽トレの広がり 介護要望として取組みやすい ・地域のよって異なる自助・互助の意識を自治会の協力を得て高めていく（周知・啓発） *楽トレ・・・介護予防の為地域で自主グループに定期的な筋トレ体操を行う場	・既存の団体（自治体・高齢者クラブ・地区社協など）活用した方がよい。 歩いて行ける生活範囲が基本だから ・サロンは増えている サロン交流会で学習会も開くがその内容が共有できていない ・自治連合会の会議など地区のための会議やイベントなどの会場に困る 各センターの予約が１か月前抽選の為、予定が立てられない	・ボランティアの掘り起し、育成 ・防災、防犯 地域で話題になるが住民だけでは解決が難しく重い課題 ・買物支援など 地域特性が異なるため、色々な人が自由に話せる意見交換会などの開催 ・ボランティア

これらを、２層協議体へ伝えていく。

６．その他

次回開催は、平成３０年度６月頃、日程が決まり次第通知する。